

囲碁



講師
小野 幸治

略歴

棋士
財団法人関西棋院所属三段。
1981年生まれ。6歳より囲碁に
親しみ、2002年、20歳のときに
入段。06年三段。師匠は山中章
雄六段。02年大手合二部二位。

advice points

- 事前に囲碁の基本的ルールを学び、碁石・碁盤に触れておくのが望ましい。
- 碁石・碁盤と、対局(向かい合う)ができる机の配置を準備する。
- 作法室など落ち着いた雰囲気の良い会場が準備できれば、なお良い。

囲碁に学ぶ礼節と思いやり

目的

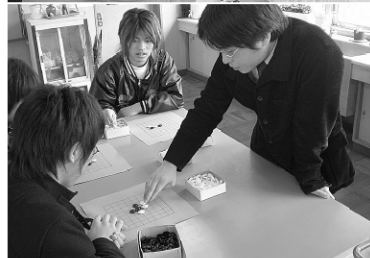
- ・対局を通じて、何事も熟考して行動に移すことの必要性を知る。

効果

- ・基本的な礼儀作法と、他人を思いやる心(敬意)の意味を知る。

到達点

- ・「勝つ喜び」と「負ける悔しさ」を知り、囲碁以外でも相手の気持ちを思いやる心と礼節を身につける。



事前学習

生徒同士で対局して碁石に触れておく。

ワークショップの流れ(2日間<1コマ/日>)

囲碁の基本ルールの説明



生徒同士で対局演習



「プロ棋士」について、講師の体験を踏まえての講話



2~3人のグループに分かれ、講師がグループを回って対局演習



講評と質疑応答

事後学習

ワークショップで習得した技術を生徒同士で対局し確認しあう。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

生徒たちと直接会話しながら対局ができ、集中力を切らずに指導できた。生徒たちも質問しやすく、丁寧に対処ができ、やる気も持続してもらえた。結果として、ほぼ全員が入門のレベルを習得できた。囲碁に興味をもった生徒もいた。彼らが囲碁を通じて「やる気」を考えるきっかけになればと思う。

先生の感想

囲碁をまったく知らない生徒たちも、囲碁のルールの基礎を理解し、学びとることができた。「石を取る」ことの意味もよく理解できたと思う。

生徒の感想

- ・囲碁の世界は厳しいのだなと感じた。先生の教え方も楽しかった。
- ・囲碁のルールやコツを覚えられた。判断力や集中力が少し身についたと思う。
- ・自分の状況や相手の進み方を予測して、どう対処するかをよく考えられるようになった。

より発展的なワークショップを実施するために

- 和室で和服を着て対局して、本格的に礼儀作法を学ぶ。
- 勝った時、負けた時の気持ちをノートにとって、相手の思いの理解につなげる。
- テレビで囲碁の番組を見て、対局を再現してみる。